

# 久里浜の学び舎



H30(2018).10.12

学校だより NO.8

横須賀市立久里浜小学校

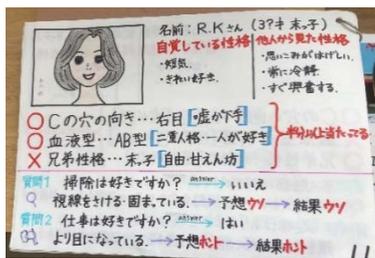
校長 木屋哲人

10月には日本国中の神様が出雲大社に集まって縁結びの会議をするとか。神様がいなくなってしまうから「神無月」。神様は島根県へ出張中ですが、平穏に過ぎてほしい10月です。

後期が始まりました。

秋は「スポーツの秋」「食欲の秋」「ファッションの秋」など、「〇〇の秋」と表現されることの多い時節です。子どもたちには、じっくり学習に取り組める時期でもあることから、「勉学の秋」また「文化の秋」「読書の秋」として、有意義に過ごしてほしいと思います。

## 自由研究が面白い



高学年の廊下には、夏休み中に子どもたちが取り組んだ自由研究が掲示されています。

ムカデ・クラゲ・

虫等の調査、歴史、スライム、割れないシャボン玉、熱中症、文具、夏野菜、図形の対角線、果物電池、ジャガイモから片栗粉、フルーツからお酢、水をつかむ、10円玉を浸ける、服の乾燥、世界の挨拶、指紋、宇宙技術の応用、天気、雲、野菜の色素、猛暑で目玉焼等、全てを紹介できないのが残念です。

個人的に、興味深かったのが、実地調査・実験的な研究です。久里浜の横断歩道の幅と白線の本数の調査、近隣の様々な施設の階段の高さと幅を測った研究、サイコロのゾロ目の確率、鉛筆一本で何ページ分の漢字練習ができるのか試した実験、自転車で廻る久里浜の見どころ、心理の本や血液型の本を手掛かりに人の性格を予想して嘘を見抜く実験、家人の仕事場の人にインタビューして仕事観をまとめたもの、千代ヶ

崎砲台跡の見学会に行ったレポート等々でした。また、最近では、市販の実験キットもあり、興味に応じて、様々な実験が手軽にできるようです。

自由研究と言えば、何をしたらいいのかかわからず困った記憶があります。もっと単純に考えてもいいのではないかと思います。たとえば、「夏休み中に、『(曲名)』の振り付けを完全コピーしました。難しかったのは△△の動きでした。これから発表します」「アニメーション動画をつくってみました。工夫した点は〇〇です。では、ご覧ください」なんていうのも、自由研究として許されるのではないかと思います。いかがでしょうか。

## 自転車通行帯マークの試行

本校と明浜小、春花秋灯のある交差点から海（東）に向かって、ヤマダ電器・京急ストア、消防派出所の交差点までの道路に、自転車通行帯のマーク（右図）が試験的に設置されるという連絡を、市の交通計画課から受けました。

通称「矢羽根マーク」と言うのだそうです。道路左端の自転車通行エリアを明らかにする青色のペイントです。他市町では既に設置されているということですが、本市で導入するにあたり、実験的に先行設置するそうです。近隣の方には、自転車と他の交通機関に関するアンケートが配布されるかもしれません。

この機会に、自転車の通行のルールも徹底されるといいと思います。

子どもたちの自由研究に触発され、久里浜のことで、昔調べたことや聞いたことを、少しだけ書いてみました。子どもたちにはもちろん、保護者の皆様にも、「この町が好き」と言ってもらうことができたら幸いです。

### 久里浜臨港線・引込線

10月の内川町内会の『内川だより』(第155号)に久里浜臨港線のことが書かれていました。

久里浜臨港線とは、現 JR と久里浜港を結ぶ鉄道の線路のことで、旧日本軍の物資の輸送のために敷設され、久里浜駅開業と同時に、昭和19年に開通したそうです。

国土交通省のHPで昭和21年の空中写真閲覧で確認してみると、久里浜駅の手前から、駅を西南に迂回するかようにして、港まで延びています。つまり、舟倉の交差点の平作川対岸辺りで横須賀線の本線から線路が分岐して、久里浜1丁目と内川2丁目の境、ニュークリアフュエルと門倉商店・みんなの公園の間をそのまま南下→ミニストップと池内精工の間→和順保育園の前→久里浜中学校(当時は久里浜小)脇の川沿い→神明小学校、神明公園グラウンド→テクノパーク内→花の国アーチェリー場入口脇→住宅地→フェリー乗り場入口のファミマ→岸壁というルートであろうかと思われます。今、ファミマ久里浜港前店の駐車場から、水先案内人事務所を見ると、不自然な斜めの道が、久里浜8丁目公園に向かっていています。この道が引込線の名残のようです。昔は、その辺りで線路がバス通りを横切っていた記憶があります。

### 三崎街道

10月2日に、はしもと茶舗の橋本篤一郎様が、商店街に関する授業を3年生にしてくださいました。その際、今のはしもと茶舗の前の道は、浦賀から三崎に続く三崎街道であることをお話しされていました。

三崎街道は、尻摺坂を下り、今のすずらん通

りとなり、さらに黒船仲通りとなって、はしもと茶舗さん前を通り、交番とローソンの間から平作川と交差していたと考えられます。ですから昔の夫婦橋は、人道橋の辺りにあったのだということです。その後は、宗円寺参道前を通り、久比里坂の切通しに向かっていきます(下図)。

黒船を見つけた三崎の漁師さんが、浦賀奉行所に向かってこの道を走ったのだそうです。

久里浜天神社のHPにも、久里浜の古地図が掲載されています。とても興味深い図です。そちらにもはしもと茶舗さん(当時は酒屋さん)が記載されていました。

